経営学会2014年度秋期研修旅行報告

Report of ‘Study Tour 2014 Autumn’.

曽我部雄樹
SOGABE Yuki
経営学部ビジネス企画学科
ysogabe@alice.asahi–u.ac.jp
米田真理
YONEDA Mari
経営学部経営学科
yoneda@alice.asahi–u.ac.jp
畦地真太郎
AZECHI Shintaro
経営学部経営学科
az@alice.asahi–u.ac.jp

要 旨

本稿は,2014年９月８－９日に行われた「経営学会2014年度秋期研修旅行」の報告である。研修テーマは「過去の遺産の活用と運営」である。訪問先は，「NPO法人神岡・町づくりネットワーク（飛騨市神岡町)」および「トヨタ白川郷自然學校（白川村)」であった。それぞれの団体および白川村教育委員会からの講演を受け，学習と研鑽を行った。

キーワード：報告，研修旅行，ガッタンゴー，飛騨市神岡町，白川村

1．研修旅行の目的と概要

経営学会では,2014年度の秋期研修旅行を９月８日から９日にかけての１泊２日の日程で開催した。研修のテーマは「過去の遺産の活用と運営」である。訪問先は飛騨市神岡町の「NPO法人神岡・町づくりネットワーク」および白川村の「トヨタ白川郷自然學校」である。

今回の研修テーマは，岐阜県内に豊富に存在するにもかかわらず，気づかれていなかったり活用されていなかったりする様々な“資源”を認識し，それを未来に活かしていくための“まなざし”を涵養することを目的としたものである。その資源は，人であったり，地域そのものであったりする。岐阜県内で，人や地域を活発に活用し活動している組織・団体の運営を視察し，講演をいただくことによって，目的を達成することとした。

今回，特に着目した資源は“遺産”である。既に産業としては本来の存在意義を失っているが，別の形で有効に利用するべき資源としての遺産が，岐阜県内には多く眠っていると考えられる。今回は，その遺産を眠らせることなく，現在の活動に生かしている地域・組織・団体を２つ選定し，訪問した。第１の訪問先である飛弾市神岡町では，廃線となった神岡鉄道のレールを利用し，アトラクション化することによって多大な観光集客を得

ている。第２の訪問先である白川村には，世界遺産に登録されることにより観光地としての知名度を上げた世界遺産白川郷（荻町集落）と，廃村跡地を利用して自然教育を行っている自然学校が存在している。

これらの地域を１泊２日で周遊することは，特に１日目は移動後の夜間に講演会が組み込まれるなど，非常なハードスケジュールであった。ただ，その分だけ参加者は研修に集中することができ，各自の学習と研鑽を積むことができたと考えられる。

なお，参加者は教員６名，大学院生１名の，合計７名であった。

2. 第１日（９月８日）飛騨市神岡町から白川村

研修旅行の第１日目は，9時に朝日大学を出発し，ひるがの高原SAで若干の休憩を取った後（図1.），目的地である飛騨市神岡町へ出発した。

図1. ひるがの高原SAから白山等の位置を確認する

神岡町では，昼食地として「道の駅スカイドーム神岡」を選定した。この道の駅は，一般的な食堂や売店だけではなく，神岡鉱山の廃坑跡を利用した巨大物理実験施設・カミオカンデの模型展示が行われていることでも有名である（図2.）。

図2. 「道の駅スカイドーム神岡」におけるカミオカンデ展示の見学

光電管の模型に触れたり，リアルタイムに送信・表示されるカミオカンデのデータを見ることにより，地域の遺産の活用に思いを馳せることができた。

昼食と展示見学の終了の後，NPO法人神岡・町づくりネットワークへと向かう（図3.）。

図3.「道の駅スカイドーム神岡」でのガッタンゴーのポスター

NPO法人神岡・町づくりネットワークには，13時頃に到着した。まず，神岡鉄道の廃線レールを利用した「ガッタンゴー」への試乗を行った。

試乗前のブリーフィングでは，レールマウンテンバイクという発想の手がかりや，その構造，全てが手作り（地域の自転車屋および工場による生産）であり，地域産業に貢献している旨が説明された（図4.）。

図4．ガッタンゴー試乗前のブリーフィング

試乗では，往復行程の経路の視察を重視することとし，乗車感・アトラクションとしての楽しみ，価格対効果のあり方，沿線景観の観光スポットとしての価値等，それぞれの興味や研究テーマとの関連を重視した観点からの体験・参与観察を行った（図5.，図6.）。

図5．ガッタンゴーの試乗

図6．折り返し地点の様子

その後，会場を移し，田口由加子氏（NPO法人神岡・町づくりネットワーク事務局職員）による講演を受けた（図7.）。

図7．田口氏による講演の様子

現在，休日には予約が非常に取りづらいほどの人気施設となっているガッタンゴーであるが，開業当初より，この人気を見込んでいたわけではないとのこと。どちらかというと，それまで地域を支え続けてきた線路を無くしてしまうことに対する疑問から，線路を残すことを最重点においた事業を展開したということだった。現在は，残した線路が集客していることに対する誇りもあり，旧神岡鉄道全線を用いた営業を行いたいと考えているが，近隣の宿泊施設との連携なども深めていかなければならないとのことだった。

なお，ガッタンゴーと同様に，廃線の上をマウンテンバイクで走る方式のアトラクションが，日本全国で次々に開業されているとのことである。その火付け役ともなった神岡には，カミオカンデの見学ツアーともあいまり，熱い視線が注がれているようだった。

この後，白川村のトヨタ白川郷自然學校へと道を急いだが，到着予定時刻を超過してしまったために，次の講演会は18時から開催された。二俣慎弥氏（白川村教育委員会事務局　文化財係・社会教育係）による，世界遺産白川郷のこれまでと未来についての講演である（図8.，図9.）。

図8．世界遺産白川郷に関する講演(1)

図9．世界遺産白川郷に関する講演(2)

白川村内の荻町集落が世界遺産指定されたことにより，日本・世界からの注目を受け，多くの観光者が訪れるようになった。一方で，高齢化や人口の減少，産業の空洞化などから，世界遺産として村落を維持することが難しくなる可能性があり，村の課題となっている。

従来の“結”による人間関係と作業・労働の分担から，新しい形での村落維持に変更していく必要があるという点について，今後も世界遺産の維持を行っていくための展望が見られた。

この講演については，翌日（９日）の日中に予定されている，世界遺産白川郷の見学のための重要な礎となった。

講演後，夕食・入浴等を経て就寝となった。

3．第２日（９月９日）白川村から大学帰着

日程２日目は，朝食後の９時30分から山田俊之氏（トヨタ白川郷自然學校　校長補佐／NPO法人白川郷自然共生フォーラム事務局長）による講演が行われた。まず，自然學校の設立の経緯や目的などについての内容でお話しをいただいた（図10.）。

図10．トヨタ白川郷自然學校での講演

現在，自然學校がある地区は離散集落の跡地であり，合掌家屋や周辺の里山としての自然環境が破壊されることを危惧したトヨタが，自然体験教育を行うための学校・宿泊施設として整備したのが始まりだということである。これは，今回の研修のテーマである「遺産の活用」と通底する話題であった。

講演後は，學校敷地内の教育林において，自然体験学習の初歩的なツアーを行い，自然に触れ学ぶ一方で，森林の教育・観光資源化についての学びを深めることができた（図11.，図12.）。

図11．自然体験学習(1)

図12．自然体験学習(2)

昼食後に，世界遺産白川郷へと移動し，見学を行った。（図13.，図14.）。村内では，基本的には自由行動とし，それぞれの研究テーマに従った見学を行った。

図13．世界遺産白川郷の見学(1)

図14．世界遺産白川郷の見学(2)

図15．村内での業者による茅葺き屋根の葺き替え

世界遺産白川郷（荻町集落）内には，平日にもかかわらず多くの観光者の姿を見ることができた。一方で，集落内への住民以外の自動車立ち入り禁止や，集落内での土産物屋の多さ，補助金により業者が行うようになった屋根の葺き替えなど，様々な課題を実見することが可能であった。これは，前日に行われた講演会による予備知識が，視察に十分に役立ったと言うことができるだろう。

その後，本学への帰着の途につき，16時30分に正門前にて解散となった。

4．本研修旅行の意義と反省，展望

以上のように，本研修旅行は，テーマに沿った研修を十分に実施し，達成することができた事業であったと考えることができる。経営学部が岐阜の地域に密着・連携した方向性を持つことが求められている折に，県内の資源を視察・検討することは，非常に有意義であったと言える。各教員も，それぞれの研究テーマを踏まえた研鑽に当てることができたと考えられる。１名だけ参加した大学院生にとっても，自らの研究を深める良い場になったようだ。

一方で，今回の研修旅行については，準備期間が短かったことが悔やまれる。学期終了後に企画が決定し，開催通知・連絡が行われたために，参加者が非常に少なかった。今後，企画の決定と実施の間には十分な余裕を持って，多くの参加者が得られるような日程調整を行わなければならないと考える。

最後に，参加者一同の写真を持って，本報告を終える（図16.）。

図16．参加者一同